

なかなか聞けない介護のこと
経験者の飼い主さんにお聞きしました。

『やっぱり事前の準備や 心がまえって大切です』

9、10歳の頃はまだまだ元気で「あと2、3年は心配ないよね」と思っていました。みなさんに知っていただきたいのは、「**介護は突然やってくる**」ということ。ちよつと体調を崩したり、軽い病気で手術をしたりすると、それが引き金となって歩けなくなったり、具合が悪くなる場合があります。

でもそんな時、飼い主さんはあわてないで欲しいんです。シニアになると、特に敏感に飼い主さんの気持ちや表情を感じ取ります。動きが思い通りにならなくなったりすると「一番不安なのは本人です。安心してくれるように、いつもと同じように接することが大切だと思います。」

できなくなったことを考えると心が痛みますがそれは本人が一番ショックなので、**できる事をほめてあげて**欲しいです。できない事を嘆いていないで、できる事を見つけて一緒に楽しんでいければ、お互いに幸せなんだと思います。

愛情を持って接したら、きつときつとお互いに後悔無く、幸せに暮らせると思います。がんばりすぎないで、一緒にいられる事を楽しんでください。

濱田さんの愛犬
ヴィヴィアンちゃん



愛犬のヴィヴィアンちゃんは9歳すぎから食事へ異様に執着しだし、いろいろ手をつくしたところ病気が判明。投薬中に熱中症から危篤状態になりましたが、幸い一命をとりとめ長い入院生活を経て、ようやくうちへ戻ってきました。危篤から長い入院生活のせいもあり、戻ってきた頃には後ろ足が立たなくなっていました。自宅でもヴィヴィアンちゃんが少しでも快適にいられるよう、納得して使える介護グッズを、日々探しては試す「介護グッズ研究」を続けてこられたそうです。その経験をもとに、濱田さんには、介護用品の開発に熱心にご協力をいただいています。



愛犬の変化に 注意して!

高齢期になると、見た目や行動に、いままでとは違う変化が表れてきます。犬の大きさ(小型犬～超大型犬)、犬種、個体差によって違いがありますが、6～7歳から徐々に老化が始まると考えられています。下記のような変化があったら、そろそろ高齢期。一度チェックしてみましょう。

高齢犬を しっかりとサポート

高齢サポート編

いざという時にあわてないために。
『6歳を過ぎたら気をつけたいこと』

いつまでも子供のように思っている犬は人間よりもずっと早く年を取っていきま。愛犬の変化に気付くためにも、日頃からよく観察し、体調の変化を見逃さないようにしたいですね。お手入れの時は、念入りに愛犬の体を触ってチェックしてみましょう。気になることがあれば、すぐに獣医師さんへ相談を。

外見にはこんな変化が...

□目の中が白くなっている。

年を重ねると人間と同じように
白内障になることもあります。

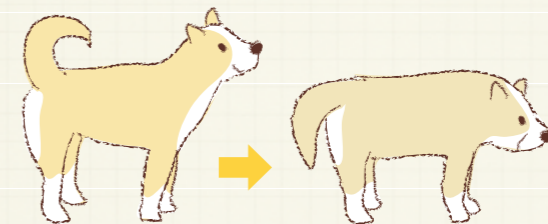


視力低下のシグナル

- 少し離れるとついて来られない。
- 夜になると歩きにくそうにしている。
- 白い壁にぶつかる。
- 階段を踏み外す。

□足腰が弱くなり、姿勢が悪くなってきた。

□おしりが痩せてきた。



成犬期

- 姿勢が良い
- おしりがプリンとしている

高齢期

- 首や肩が下がって猫背ぎみに
- お尻と足が痩せる
- しっぽが下がる

□白髪が増えてきた。

□毛の艶がなくなってきた。

まず顔の回りの毛が白くなり、徐々に全身の毛が白くなってきます。また皮膚のうるおいが減ることでモツヤが悪くなったりフケが出たりします。



いままでと違う行動はありませんか?

□寝ていることが多くなってきた。



□名前を呼んでも反応しないことがある。

聴覚が衰えて、音が聴き取りにくくなっていることがあります。



□トイレの失敗をするようになった。

加齢とともに犬も頻尿になるため、トイレに行こうとしているのに、間に合わずに失敗してしまうことも。

他にもこんなサインが...

- ソファや階段などの段差に登れなくなった
- 太ってきた。痩せてきた。

- あまり遊ばなくなってきた。
- 食べ物に執着するようになってきた。または逆に興味をしめさなくなった。
- 口臭がひどくなってきた。

高齢期に入る年齢の目安

- 小型犬..... 11～13歳
- 中型犬..... 10～12歳
- 大型犬..... 9～12歳
- 超大型犬..... 8～9歳

若いワンコも必見! いまから始めるシニア準備 おうちでトイレのすすめ

ランディの トレーニング奮闘記!

挑戦犬 ランディ(MIX 10歳 男)

Q.改めておうちのトイレを始めようと思ったきっかけは?

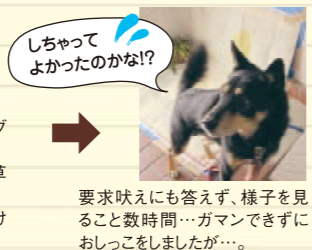
年を取ってきたせいか、トイレに連れて戻って来ては「またトイレ!」と頻りに吠えられて、なかなか落ち着けなくて。すぐに連れて行けなくてガマンさせるのもかわいそう。それにこのままではさらに年を重ねると寝れない日があるんじゃないかと心配で...



スタート

シーツを敷いて、トイレスペースを設置。普段のトイレ環境に近づけるためこんな工夫もしてみました!

- 鉢に丈のある雑草を植え、マーキングできるところを用意。
- ペットシーツに外から取ってきた雑草や土を敷いて外の環境に似せる。
- ランディ自身または他の犬の尿をつけたペットシーツを置く。



「しちゃってよかったのかな!」

「やっぱり外でしたいよ!」

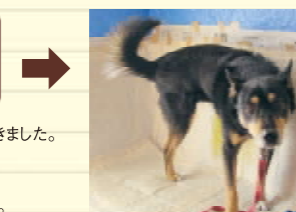
ギャンギャン!

「家の中でおしっこをしていい!」とはなかなか理解できないランディ。外に行きたくて吠えますが、ここはグッと我慢して、無視。



「家の中でおしっこをしていい!」とはなかなか理解できないランディ。外に行きたくて吠えますが、ここはグッと我慢して、無視。

ランディと飼い主さんの我慢比べが続くこと数週間...



「よっとならなくて要求することなく、トイレができるように!」草や土を置かなくても平気です。

- その間に少しずつ難易度をあげていきました。
- 雑草や土の量を減らしていく。
 - 雑草を取り除く。
 - 尿のついたペットシーツを置かない。

Q.やってみてどうでしたか?

「トイレに連れて行って!」の要求吠えに答えられないように無視するのがたいへんでした。上手にできたときにはいっぱい誉めて、ごほうびをあげたりお散歩に行くなどを繰り返すと、次第に要求吠えも落ち着いてきました。あせらないでじっくりやるのが大事ですね。



「ほくにもできたよ!みんなもがんばろうね。」